

母校の充実と発展を願って …会長就任に当たって



上越教育大学大学院同窓会長
寺田 喜男
(昭和 63 年 3 月修了)

会員の皆様には、それぞれの地域、それぞれのお立場でご活躍のことと拝察し、お喜び申し上げます。私は、このたび新部嘉一会長の後を引き継ぐことになりました。微力ではありますが、誠心誠意務める覚悟ですので、よろしくご支援くださいますようお願いいたします。

上越教育大学は、今年(2008年)10月で創立30周年を迎えます。1978年(昭和53年)10月1日に、新たな時代的・社会的な要請に応える教員養成を行うとともに、学校教育の場における教育研究の推進者を養成する大学院を備えた大学として発足しました。以来30年、上越の地で学んだ会員は理論的・実践的指導力の向上に大きな成果をあげ、成果を駆使し、全国で学校教育のリーダーとして活躍しています。

大学に、大学院同窓会は心からお祝いを申し上げるとともに、一層の充実を期待いたします。折しも、今年度から教職大学院が設置されました。これまでの大学院修士課程と併せて教育現場で働くリーダーとしての教師、即戦力の教師養成をめざした課程がおかれたわけです。平成19年度採択の専門職大学院GPと相まってますます充実した研修、研究の仕組みが整ったことは大変嬉しいことです。このような研修、研究の体制を、より効果的・実践的なものとするために、また会員の皆様と当面する諸課題の解決のためには、会員相互、会員と大学の連携が有効となります。情報交換の場として、同窓会及び各都道府県同窓会が大きな役割を果たすものと思います。

準備中、また可能性を探っているという県もありますが、5136人を数える会員数、全国的な会員の広がりから考えると必ずしも十分ではないような気がします。今後、多くの県に同窓会組織がつくられ、会員の交流が一層深まることを願っています。

会員の皆様が、これまでの学びを生かし、連携して課題を解決し大きな力を発揮したとき、母校もまた輝くことと思います。

皆様のますますの連携と格段のご協力、各都道府県同窓会の充実・組織確立をお願いいたします。

日本の教育の充実のために、同窓会員の皆様のますますのご活躍と、30周年を契機とした母校の充実・発展をご期待申し上げ、ご挨拶といたします。

大学院同窓会への問い合わせ先
大学院同窓会事務局長
中村 雅彦
(自然・生活教育学系 教授)
E-mail: masahiko@juen.ac.jp



修了生からのお便り

子どもたちにもっと自然体験をさせたい



野外炊事研修 (MYOKO ボランティア養成所)

る受入モデル地域の農山漁村で、長期宿泊体験活動を実施する取組が行われています。

このプロジェクトの背景には、現在の子どもたちに学級崩壊などに見られるような自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であること、問題行動、いじめによる子どもたちの自殺、体力低下などがあるとされています。

私たち自然の家職員が考える青少年の課題は、「命を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識

の育成」です。そのために「子どもたちにもっと自然体験をさせたい」と願い、「いじめ、不登校、問題行動の根絶」を目標に事業を展開しています。

上教大で学ぶ皆さんへ

自然の家には、実に多くの学生が訪れています。学部1年生の「新入生合宿研修」。当施設の企画事業「MYOKOボランティア養成所」、「心の冒険教育指導者養成講座」、「学社共同企画セミナー」への参加。また、フレンドシップ事業として「妙高市フレンドスクール」(6泊7日の長期宿泊体験活動)のキャンプカウンセラー。学生が企画・運営する「学びの広場」…。さらに、妙高アドベンチャー(MA)の外部研修指導員として活躍している学生もいます。

自然の家の豊かな自然の中で、たくましく成長していく子どもの姿を、そしてあなた自身の姿を、あなたも感じて見ませんか？

プロフィール 湯浅 昭司 (ゆあさ・しょうじ)

国立妙高青少年自然の家事業推進課長
昭和 62 年 3 月上越教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻生活・健康系(体育)コース修了
昭和 56 年 4 月、上越教育大学第 1 期生として入学。大学院修了後、新潟県公立学校教員として 20 年間勤務。平成 20 年 4 月、長岡市立大河津小学校教頭より現職に。
HP: 国立妙高青少年自然の家 <http://myoko.niye.go.jp/>



私は、昭和 56 年 4 月に上越教育大学第 1 期生として入学しました。学部卒業後大学院に進み、昭和 62 年 3 月に修了しました。大学院修了後 2 年間ほどの講師を経て、新潟

県の公立学校の教員になり、はや 20 年が過ぎました。国立妙高青少年自然の家に勤務するようにになり、大学とのかかわりが

自然体験活動のススメ

今年度から、農林水産省、文部科学省、総務省の連携により「子ども農山漁村交流プロジェクト」が開始され、文部科学省が指定した小学校が、農林水産省が指定す



今日も森の中から子どもたちの歓声が聞こえる